

誰一人取り残さない世界を実現するために。  
私たちは道東で、SDGsに取り組みます。

道東及び北海道において  
SDGsを共に推進していきませんか？



発行元:道東SDGs推進協議会  
編集企画協力:株式会社TREE  
問い合わせ先:道東SDGs推進協議会事務局  
easternhokkaidosdgs@gmail.com

# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

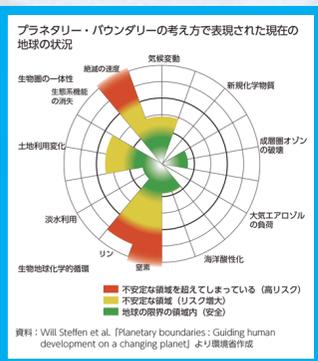
## 道東SDGs ハンドブック

Transforming Our World

私たちの地域から、より良い未来をつくっていこう。

# PLANETARY BOUNDARY

地球の限界(プラネタリー・バウンダリー)



2050年、みなさんは何才になっていきますか？

国連の調査によると、2017年の時点で世界の人口は76億人。2050年には98億人(\*①)にまで増えると予測されています。この急激な人口増加が進んだとき、「地球が持ちこたえられるのか？」が、今、世界中で問題視されています。

(レーダーチャートの引用)  
図:環境省ウェブサイトより  
<https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/h29/html/hj17010101.html>

「地球の限界」(プラネタリー・バウンダリー)は、人間の活動が地球に与える影響を9種類の変化によって客観的に評価する考え方です。その9種類の変化とは、①生態系と生物多様性の破壊、②気候変動、③海洋酸性化、④土地利用変化、⑤持続可能でない淡水利用、⑥窒素とリンの生物圏への流入、⑦大気エアロゾル(大気中に浮遊する微小な液体または固体の粒子)の変化、⑧新規化学物質による汚染、⑨成層圏オゾンの破壊です。とくに生態系・生物多様性の破壊、窒素とリンの生物圏への流入、土地利用変化、気候変動については、すでに人間が安全に活動できる範囲を越えるレベルに達していると分析されています。

こうした地球システムの問題は、絶滅に瀕する生物の消失や異常気象の問題だけでなく、資源の争奪による紛争や経済格差、貧困、飢餓などさまざまな経済、社会、環境の複雑な問題につながっています。人間が引き起こしたこの地球の危機的状況に対して、私たちはどうしていったらいいのでしょうか？

# 「SDGs」って何？

What is “Sustainable Development Goals” ?



Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)は、2030年までに、世界中の人々があらゆる垣根を越えて協力し、今よりもっと良い世界をつくるために、国連で決まった17個の目標(\*②)です。3年をかけて、世界中で政府、国連、市民、企業、研究者、女性、若者などさまざまな立場の人たちが話し合い、2015年9月にニューヨークの国連本部で採択されました。「誰一人取り残さない(no one will be left behind)」を基本理念とし、先進国も発展途上国も新興国も、全ての人が幸せになる世界の実現を目指しています。

17個の目標にはあらゆる分野の問題が含まれていますが、大きくは「経済」「社会」「環境」の3つの種類に分けられ、どの目標も他の目標と関連性があります。地球が抱えている問題は互いに複雑に絡み合っており、何か一つに対して取り組んでも解決は困難です。取り組み方にもいわゆる正解はありません。だからこそ、一人一人が自分でできることを考え、いろいろな人と協力し合って、自主的にアクションをしていくことが求められています。

17個の各目標の下には「ターゲット」といわれる、より具体的な169個の指標が掲げられています。より詳しく知るために、自分で調べてみましょう！

- |   |  |   |
|---|--|---|
|  1 貧困をなくそう       |  7 エネルギーをみんなに<br>そしてクリーンに |  13 気候変動に具体的な対策を   |
|  2 飢餓をゼロに        |  8 働きがいも経済成長も             |  14 海の豊かさを守ろう  |
|  3 すべての人に健康と福祉を  |  9 産業と技術革新の基盤をつくろう        |  15 陸の豊かさを守ろう  |
|  4 質の高い教育をみんなに   |  10 人や国の不平等をなくそう          |  16 平和と公正をすべての人に   |
|  5 ジェンダー平等を実現しよう |  11 住み続けられるまちづくりを         |  17 パートナーシップで目標を達成しよう  |
|  6 安全な水とトイレを世界中に |  12 つくる責任 つかう責任           |  国際連合広報センター<br><a href="https://goo.gl/4WmG8W">https://goo.gl/4WmG8W</a> |

# SDGs from Our Areas

私たちの暮らす地域からSDGsを考えてみよう！

## 道東の経済

## 持続可能な地域経済のためにできること For the sustainable local economy.

### 農業



道東の酪農業の様子

道東エリアはオホーツク海と太平洋に面し、豊かな漁場にも恵まれています。水揚げ高日本一を誇るサマメ魚をはじめ、サケ、マス、スケトウダラ、イワシ、ホタテ貝、毛ガニ、シシャモなどの漁船漁業、秋サケを主体とする定置網漁、コンブ、ウニ、カキなどの栽培漁業というように海域特性に応じた資源管理型の漁業が行われており、漁場や産卵礁の整備もされ、日本有数の一大漁業生産地域となっています。最近では、地域特産魚種のブランド化も推進し、地産地消や地元小中学生への出前授業や料理教室を通じた食育にも力を入れています。

課題としては、国民の食への安全志向が高まる中、同時に、地球の気候変動による生態系の変化・海の汚染などの影響で漁獲量が変動する中において、安全で良質な水産物を安定的に供給することです。そのための漁場の整備や地域HACCP（地方自治体が認める食の安全認定）への対応が求められています。また、海域におけるロシアとの関係（北方領土問題）も重要な課題です。

私たちの住む道東エリアは、日本はもちろん世界的に見ても、恵まれた土地資源を有しています。それを活かして昔から大規模な酪農や畑作農業が営まれており、釧路根室地域では主に道外向けの生乳が、オホーツク海側の網走北見地域ではじゃがいも・甜菜・麦・豆・スイートコーン・玉ねぎなどの様々な農作物が生産され、食糧自給率が低い日本において重要な食糧供給地となっています。最近では農業体験やファームイン（農場の宿）を行う生産者も現れ、都市住民との交流も図られるようになりました。

一方で課題も抱えており、近年の国際化の進展や飲用牛乳の消費低下などの厳しい生産情勢の中、次世代の担い手の確保や環境問題などに取り組んでいかねばなりません。

### 漁業



道東の漁業の様子

### 観光業



道東エリアには、「知床国立公園」や「野付風蓮道立自然公園」、阿寒湖・屈斜路湖・摩周湖などの湖を擁し雌阿寒岳・硫黄山などの火山活動が噴気をあげる「阿寒国立公園」、日本最大の湿原に貴重な動植物を育む「釧路湿原国立公園」、厚岸湖・霧多布湿原・尻羽岬など変化に富んだ海岸景観と美しい植物群落を特色とする「厚岸道立自然公園」などの、複数の公園があります。雄大で神秘的な自然にあふれた観光地であり、道路やビジターセンターの整備も進んでいます。また、炭鉱などの産業遺産もあります。最近では、農業や牧場と絡めた体験型ツーリズムや、食をテーマにしたフードツーリズム、環境をテーマにしたグリーンツーリズムなどの新しい旅の提案も活発化しています。

観光振興と同時に自然環境をいかに守っていくか、そしてテーマ性のあるツーリズムに対応できる専門性の高いガイドの育成が課題です。

### Action!

## 地域の健康と農家を守り、環境問題にも取り組むスーパー

食品や衣料などを販売している中標津町の複合流通企業 株式会社 東武は、地域住民の健康や地元農家を応援するために、できる限り安全で安心、かつ地域農家がつくる野菜や果物などの地産地消の商品を扱うスーパーです。

商品を購入いただく地域のお客様とその子どもたちの健康を考えた商品紹介ポップを店頭を設置するなどの販売方法は全国でも珍しく、企業のポリシーやメッセージが伝わってきます。またオーガニック食材を量り売りして、できるだけプラスチックパッケージを減らすなど、SDGs目標12を起点に、気候変動(目標13)へもつながる素晴らしい仕組みを導入しています。

その他、エコロジへの取り組みも積極的に行い、発泡スチロールをリサイクル可能な状態に処理する機械の導入や、食品トレー・牛乳パックの回収、レジ袋を減らすマイバスケット制度も実施しています。また中標津町の保健所に保護されている犬や猫の命を救う「わん・にゃんレスキュー」など、多様な社会的環境問題に取り組む、まさに安心して暮らせるまちづくり(目標11)に貢献する企業です。



### Action!

## 小規模だからできる、環境にやさしい酪農と農業

中標津町の養老牛山本牧場は、環境負荷の少ない循環型放牧酪農を実践しています。無農薬無化学肥料の草で牛を飼育し、輸入配合飼料・穀類を一切使わず一年中屋外で放牧されたグラスフェッドミルクは「WILD MILK」とも呼ばれ、道内外から高い評価を得るとともに、フードマイルージが極めて低い牛乳として注目されています。

動物への優しさだけでなく、牧草地帯における生物多様性の損失を抑え、経済的にも付加価値の高い小規模農業によるSDGsローカルアクションモデルと言えます。

2019年から国連「家族農業の10年」が始まりました。「家族農業」とは、農場の運営から管理までの大部分を、1戸の家族で営んでいる農業のことです。現在、世界の食糧のうち約8割が家族農業による生産でまかなわれています。環境負荷の少ない家族農業は、気候変動への対応として目標13や目標15に貢献します。





道東の環境

世界に誇る自然環境との共生を目指す

For the mutual benefit with the world-class natural environment.

陸

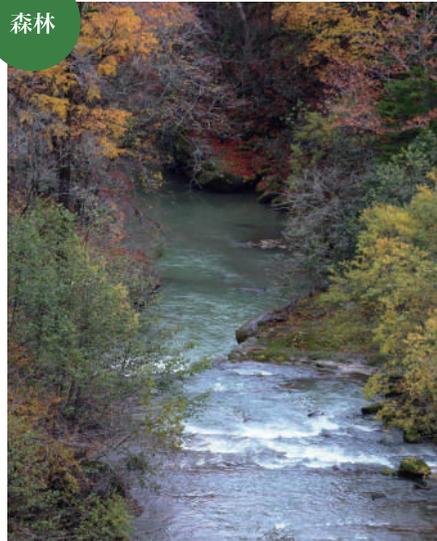


絶滅危惧種のシマフクロウ

世界自然遺産に登録された「知床国立公園」、ラムサール条約(水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約)登録湿地に指定された釧路湿原、厚岸湖・別寒辺牛湿原、霧多布湿原、阿寒湖など、道東は希少な動植物の生態系としても重要なエリアです。オオウシ、シマフクロウ、タンチョウ、キタサンショウウオなどの天然記念物も生息しています。火山を含む山、海、川、湖など変化に富んだ自然に四季を通じて触れることができ、私たちの暮らしの中にも「環境との共生」の心や考え方が息づいています。

これからの課題は、この貴重な自然環境をよりいっそう大切に守っていくことです。シマフクロウは森林伐採による営巣木の減少と河川改修や砂防ダム建設による餌の魚類の減少などにより、現在の生息数は約70つがい160羽で、絶滅のおそれが最も高い絶滅危惧IA類に指定されています。外来種の増加にも気をつける必要があります。ツーリズムが活発化する中、適切な啓蒙ができるガイドの育成も重要です。

森林



道東の森林

道東エリアは広域に渡って森林に覆われています。北海道の気候に適したカラマツやトドマツなどの人工林が多く、木材や、ペレットストーブ・ペレットボイラーの燃料になる木質チップなど、建築・土木・農業・水産業といったさまざまな分野で利用できる資源としても高い価値があります。木材の地産地消や、木に親しみ学ぶ「木育」活動なども推進されています。また、森林の持つ公益性を活用し、学習やスポーツ、レクリエーション活動の場にもなっています。

課題としては、近年、台風による風倒木整理やカラマツ需要の高まりなどから伐採が急速に進み、伐採跡地が増加しています。このため、伐採跡地の解消や人工林資源の維持保存を目的として資源管理を進めていく必要があります。さらには、地球温暖化防止の二酸化炭素吸収源としての役割や水源の涵養など森林への期待が多様化する中、災害に強い国土づくりや、湿原、河川、湖沼などの水辺空間の保全といった、多面的機能を高める森林整備が求められています。

海



写真提供: 根室市観光協会

オホーツク海の流氷

オホーツク海と太平洋を擁する道東の海は、黒潮と呼ばれる暖流と親潮と呼ばれる寒流がぶつかり、多様な海洋生物が生息する生態系に恵まれています。ニシン、サケ、マス、スケトウダラ、イワシなどの魚類はもちろん、イカやタコなどの頭足類、貝類、甲殻類の他、オホーツク海ではトドやアザラシ、キタオットセイなどの海生哺乳類も見られます。また、流水でも有名なオホーツク海は、世界で最も低い緯度で季節海氷が生成し、日本唯一の氷海域でもあります。

近年は流氷が減少しており、地球温暖化の影響は否めません。周期的な気候変動(レジームシフト)により海水の温度が数年ごとに変動し、その度に数が増える魚種もあれば少なくなる魚種もあるため、水産資源として将来を予測しながら持続的な利用を工夫していくことが課題となっています。

Action!

散布小中学校の「あさり島活動」



浜中町の散布小中学校(小中併置校)では、地元の散布漁協と連携した「あさり島活動」(地域産業を学ぶ教育)を実施しています。散布漁協から無償で貸与いただいているあさり島を活用して、事前の調べ学習や2日間の採取活動を行っています。採取したあさは地域保護者の協力も得て選別作業をし漁協に出荷。益金を得る経験させています。益金は周辺地域の老人福祉施設や保育所・動物愛護団体等への寄付を行い、平成30年度は釧路動物園の古くなった「顔出しパネル」の作成を業者に依頼し釧路市長に贈呈しています。

子どもたちにとって地域と産業の繋がりを学ぶ機会となっており、活用経験まで学ぶことで、将来必要になる力の育成や発想力が育つことを期待する取り組みです。あさり島活動において、子どもたちは地域を支える水産業で活躍する大人の話聞き、その後実際に自分たちでその産業を体験し、活動の成果が地域社会に貢献することを体感します。地域の産業と子どもたちの学び、そして将来の担い手育成という、地域と学びが一体となった持続可能性を生む教育事業です。

また、平成31年度から3年間の予定で「海洋教育バイオンスクール」の指定を受けました。身近な題材を学び、成果を発信する力を身につけ、将来にわたっての町づくりに貢献できる人材育成を行っています。SDGs目標4の持続可能な社会を担う教育から、目標14の海の資源の大切さを体験的に学びながら、地域のつながり(目標11)をつなぐ活動です。

Action!

絶滅危惧種のシマフクロウを守る



NPO法人シマフクロウ・エイドのミッションは、持続的な地域自然循環を築き、生物多様性の保全を進め、北海道の自然・文化を象徴するシマフクロウと私たちの安定した未来につなげることです。

活動の柱は保護保全と普及啓発です。調査や餌やりなどの成果・課題を、環境教育や広報でみんなに知らせ、地域や社会を巻き込みながら保護保全を推進しています。

今後はシマフクロウを指標とした水源涵養林保全(水の供給源となっている森林を守る)の取り組みも進めていきます。

これらの取り組みは地域全体の生態系を守ることにもなり、一次産業の資源保護、防災機能の回復、次世代を担う子どもたちの郷土愛育成につながります。SDGsの目標4を起点に、15、14、11、6、17を推進するものです。

# 道東の社会

## いつまでも安心して暮らせるまちづくりへ

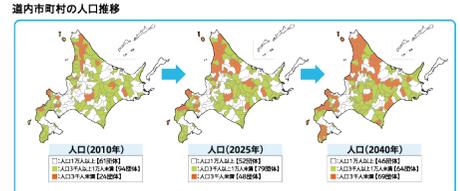
*For the sustainable, reliable community.*

自然がもたらす資源や一次産業に恵まれた道東エリアですが、一方で基幹産業の低迷や少子高齢化による人口減少が問題となっています。道東エリアから札幌、あるいは道外(特に3大都市圏である東京・名古屋・大阪)への人口流出が続いており、転入より転出する人数の方が多い状況です。

北海道は、人口減少のスピードが全国平均より約10年早く、高齢化率も全国平均を上回る速さで進んでいます。一方で、北海道の出生率は全国平均よりも下回っており、未婚化や晩婚化の影響や、家族による子育て支援力の弱さが影響しています。こうした状況の中で、子どもたちが通う小中学校の統廃合が進んでおり、行政の財政削減や適正な規模での効果的な教育が図られています。

若者の完全失業率も全国平均よりも高くなっていますが、人口減少に伴い外国人労働者数は増加しています。少子高齢化と人口減少が早いスピードで進むエリアでは、道路、水道、ガス、電気など、生活基盤となるインフラの老朽化に対応しきれなくなる恐れもあります。

また、道東エリアでも近年の災害の多発はゆゆしき事態です。地震、津波、火山噴火が予想されており、災害時の鉄道や道路の途絶や空港閉鎖による社会・経済への影響も大きなものです。冬期には暴風雪や豪雪も近年頻発しています。



これらの社会的な課題は、道東エリアや北海道に限ったことではなく、今の日本全体の課題でもあると共に、将来的には世界のあちこちでも同様のことが起こる可能性があります。これらの課題に、私たちはいち早く対応していかななくてはなりません。私たちの取り組みが、今後同じ課題を抱える人々の前例になっていくのです。

### 北海道の人口動向

#### 【人口減少が地域の将来に与える影響の分析・考察】



・生産年齢人口の減少と高齢化の進展による非就業者の増加により、将来の就業者数は総人口を上回るスピードで減少する。  
・就業者数の減少による人手不足は、地域活力の低下や農林水産物の供給力の低下を招くことが懸念される。



・医療費の総額は、2025～2030年をピークに減少し、地方部における医療施設の撤退や身近な受診、受療機会の減少、通院時間の増加等が懸念される。  
・高齢化に伴い、一人当たりの医療費は増加することにより、若年層や現役世代の負担増が懸念される。

【転載】北海道人口ビジョンの概要 ～北海道の人口の現状と展望～ [http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/csr/jinkou/senryaku/gaiyo\\_vision.pdf](http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/csr/jinkou/senryaku/gaiyo_vision.pdf)

### Action!

## ハンディキャップのある人も一緒に暮らせる地域へ



誰一人取り残さないという使命は、障害などハンディキャップのある人たちが住み続けられる地域をつくることでもあります。

別海町で障害者雇用に取り組む有限会社ケイ・クリーンサービスでは、障害のある人の雇用促進に向け、生産や作業効率をただ求めるのではなく、本人が持っている能力の見極め、作業工程の見直しなどにより、さまざまな人が働くことのできる職場づくりを手掛けてきました。

つながりと支えあいを実感できること、そして企業側の意識改革が必要です。SDGs目標3の福祉を推進する中で、働きがいのある地域社会を目指す目標8にもつながります。地域の未来は高齢化や人口減少の中で、多様な人々が共に支え合っていくコミュニティがとても大切な社会となります。

### Action!

## AIで酪農・農業の担い手不足解決を目指す



2050年、日本には、高齢化や人口減少が引き起こす就労人口や後継者不足などの社会的課題が山積しています。そうした中、根拠の基幹産業である酪農畜産を中心に、作物を育て、牛が育ち、人が育ち、持続可能な経済成長を遂げて豊かになることを目指したいと語る別海町の中山農場では、牛の健康管理などをAIなど駆使した先端酪農に取り組む、大規模酪農経営における変革を目指しています。

農業の自動化AIには電気が必要です。生産性の高い搾乳と品質管理を目指すロボット牛舎などにより、中山農場の電気代は2倍以上となる経営環境の中で、2019年春より家畜の糞からメタン発酵させ、毎時150kwの発電をして、経産省の固定価格買い取り制度を活用し、北電に売電していく計画です。この取組みは、農場が中春別の集落地に近いこともあり、臭気を無くするための取り組みでもあるのです。

糞尿による地域環境問題と新しい産業革新を目指す酪農経営は、SDGs目標7や目標9に貢献しながら、目標11へとつながっていきます。

# SDGs WORKSHOP 2018

別海町、浜中町、中標津町で開催

2018年度は3地域でワークショップを開催。地域の身近な課題と環境課題の解決に向けたアクションを、さまざまな年齢や立場のみなんで考えました。



## ワークショップ参加者の声

- ・「SDGsを身の周りにどのように当てはめていくのか、どう関わっていくのかイメージできた!」
- ・「海、山、商業、いろんな産業に携わっている人が集まって話し合い、手段は違えど住み心地の良いまちづくりのために守りたいと思うものが同じだと気づいた」
- ・「人と人とのつながり、パートナーシップの重要性を感じた」
- ・「地方だからとあきらめないで、取り組めることは無限にある!」

## アクションのアイデア

- ・地域や一次産業を魅力的にアピールする(ブランド化)
- ・二次加工できる場を作る。町や土地を提供し、工場建設を地域で支援する
- ・担い手の意識を高める、人を育てる
- ・教育のレベルを上げて選択肢を増やす
- ・町を超えて連携し、観光周遊バスを走らせる
- ・通信インフラを整備して、テレワークや専門的な資格の取得ができるようにする
- ・地元の産物を味わえる店をつくる
- ・人を呼び込む観光、滞在型の交流事業
- ・人生生涯現役、業に頼らず健康に対する自助努力をする
- ・近所と声を掛け合う、助け合う



ワークショップは、参加者それぞれの視点で、自分たちの地域の環境、経済、社会課題について考え、グループディスカッションをした後に発表をします。



あなたの周りでも、SDGsの視点で、地域の課題や解決のためのアクションを話し合ってみましょう! その課題に関連する17の目標や169のターゲットは何か、調べたり、考えたりしてみましょう。



# BUSINESS CREATION

ワークショップからは、たくさんのビジョンや構想が描かれました。その中の代表的な事業構想を紹介します。

## Vision

## オーガニック大麦のブランディングで特産品づくり

*Branding with organic barley production*



中標津町で酪農業を行う希望農場では、数年前より大麦の生産を開始し、中標津オーガニック大麦のブランディングを目指しています。酪農だけではない中標津町の特産品づくりを目指し、中標津の気候を活かした大麦の生産と大麦製品の販売に取り組むことで、新たな雇用が生まれる土台も作られます。

最終的な目標の一つに、大麦を活用した中標津産ウイスキー生産がありますが、ウイスキーの生産にはおよそ8年の年月がかかります。生産開始までの合間にも、大麦パンケーキなどのオーガニック大麦製品をつくり、中標津の大型オーガニックスーパー、東武と提携し中標津大麦のブランディングを進める計画です。

# SDGs WORKSHOP 2019

標津・羅臼町、根室市、釧路市で開催

2019年度は4地域3箇所で開催。地域や組織にとられない活発な意見が生まれ、自分たちの地域の持続可能性に向けた具体的なアクションが共有されました。



**ワークショップ参加者の声**

- ・多様な仕事・年代の方が集まって考えると見方が変わって、しかしゴールが一緒であることがおもしろかったです。
- ・普段ここまでこのメンバーでお話する機会がなかったのでとても刺激になりました。
- ・高校生が成長していて良かった
- ・地域の問題や課題を解決することで世界地球のためになると気づいた。
- ・孫たちに今よりもいい環境が残せたらいいですね。



**アクションのアイデア**

標津・羅臼町：「修学旅行を道東に呼ぶ」、「高校以降の高等教育機関」、「海の環境調査」、「サステナブルツーリズム国際認証導入」

根室市：「地元の専門職の活躍」、「避暑地長期滞在型ボランティア育成」、「漁業の学校づくり」、「根室の魅力に住民全体で学ぶ観光教育」

釧路市：「ペーパーレスな教室づくり」、「VRを使った動物園学習」、「無料の大学づくり」、「観光ガイド増加」、「北大通周辺の緑化計画」、「観光 x アート」



## 浜中町：「河畔林再生 未来の森プロジェクト（仮）」



(c) NPO 法人シマフクロウ・エイド

(c) NPO 法人シマフクロウ・エイド

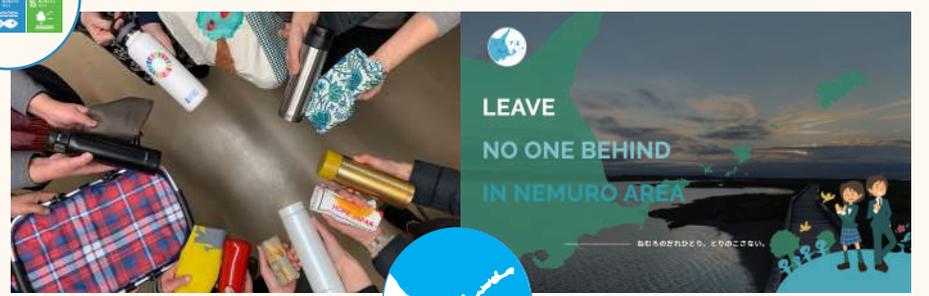
### 浜中町

浜中町で酪農業・チーズ生産を行うグレートフルファーム松岡牧場は、自然環境保護や野鳥保護を行う NPO 法人シマフクロウ・エイド、林業を営むグレートノースとともに「河畔林再生 未来の森プロジェクト（仮）」を 2020 年にスタートします。

松岡牧場付近の水源地と酪農地の境に、動物や自然環境に悪影響を与えない形で植樹活動を行うこのプロジェクトは、地元の学生にも課外教育の一貫として事業に参加をしてもらい、地域内での事業認知も高めつつ、事業活動全体が「地域とともに森・動物・水源を守る牛乳・乳製品づくり」につながります。浜中町の主要産業である酪農業のさらなるブランディングと、次世代の若者への地域教育が産まれる、環境・社会・経済の同時解決事業が始まろうとしています。



## 根室市：シナプスねむる



### 根室市

根室市でのワークショップをきっかけとして、根室地域の SDGs 推進・普及や、地域・自然教育の実施、まちづくり活動の実施等を目指す有志ボランティア団体、「シナプスねむる」が結成されました。同団体は現在 10 名のメンバーがそれぞれ協力しながら多様な活動を進めており、オーガニック養鶏場を基盤とした食体験自然学習ツアーの推進や、空き家をリフォームしたコワーキングカフェ企画の推進、また障害者雇用促進を目的とした福祉イベントの企画立案等を行っています。

## SDGs Quest みらい甲子園 地域公開イベント in くしろ



### 【SDGs Quest みらい甲子園 全国エリア大会】

毎年開催される全国のエリア大会では、高校生がチームを組んで、自分たちの考えるSDGsアクションをプレゼンテーションファイルにして応募します。各エリアで選ばれた高校生は、エリア大会での発表をし、最優秀チームは全国大会への出場権利を得ます。

2019年度初開催となるSDGs Quest みらい甲子園<北海道エリア大会>に先立ち、高校生をメインターゲットとした地域公開イベントが釧路市で開催されました。釧路・根室管内から集まった高校生らが、オーガナイザーからSDGsと地域の持続可能性について動画を交えながら学習し、個人ワーク、グループディスカッション、チームワークを通じて、高校生の視点から自分たちのまちづくりや地域の持続化について考えます。

2019年1月に開催された釧路市での同イベントは、同日開催の札幌会場とオンライン会議ツールを使用して映像と音声を繋げ、釧路と札幌のグループワークの内容を相互に発表し合うという試みも行われました。高校生たちはこの後、地域公開イベントで得た学びや気づきを糧にして、北海道エリア大会への準備を進めてゆきます。

SDGs Quest みらい甲子園 公式サイト：<https://sdgs.ac>

## 北海道道東地域広域ビジョン Eastern Hokkaido Regional Vision

### 私たちの道東 SDGs ビジョン 2030

#### SDGs道東モデル宣言

私たち道東地域は人口減少など社会的課題の解決と持続可能な地域づくりに向け自治体の枠を超えた広域の連携を進めるとともに、自治体、企業・団体や教育機関、住民などのパートナーシップを育み、地域特有の豊かな自然と文化に立脚した道東圏ならではの「SDGsモデル」を世界に発信します。



#### 豊かな自然生態系の保護と賢明な利用

道東地域の住民一人ひとりが、自然や生態系と関わる意識、地域文化に理解の念を抱いています。道南など他の地域よりも自然の美しい環境や生態系を守り、ヒグマやシマフクロウなどの野生生物と適正な距離をもちつつ、その恵みを享受しています。いくつかの地域では、自然資源のマネジメントに取り組みが開始され、地域住民との連携・協働によって、持続可能な観光まちづくりが進められています。地産地消を促す人に対して、こうした価値や強みなどから適切な情報が伝えられ、地域のファンとなる人口が増えています。



#### 基盤となる第一次産業の発展

自然環境や生態系と密着した持続可能な農業・林業と漁業が地域に定着し、農村の経済と社会、福祉に対する多面的な働きが期待されています。多様な人材が働きがいのある仕事に就業し、思いを遂げることも、差違が引き起こされています。また、道東地域の内外のつながり、生産者と消費者のつながりが深まり、日本の「食」を支えています。付加価値の創出に向けて、農業と観光、自工業、観光業などの多様な産業との連携・協働が進み、商品開発やシェアリングの推進などで革新的な取り組みが生まれています。



#### つながりを織りなす学びと協働

すべての子どもたちが性別に関わらず、家庭状況や出身などに問わず、質の高い教育を受けています。小中学校や高校と、地域の企業、市民団体、大学などの連携・協働が進み、ふるさと教育が充実しています。道東地域を誇りに思う子どもたち、若者自身が、地域の未来を創る活動を実践しています。人口減少が進む地域でも、経済と社会、福祉の観点における一人ひとりの役割はさらに重要になります。そこでは地域や立場、分野を超えた対話の場をつくり、連携・協働による具体的な行動を促す中間支援が大きな役割を果たします。中間支援による生まれたつながりは、別個な取り組みに対する地域の持続可能性を高めています。

Illustrated by Yurie Makihara

広域ビジョン素案

道東SDGs推進協議会は根室・釧路地域を主とする北海道道東地域の住民に向けて、社会的な課題の解決と持続可能な地域づくりに向け自治体の枠を超えた広域の連携を進めるとともに、自治体、企業や団体、教育機関、住民など、多様な主体によるパートナーシップを育み、地域特有の豊かな自然と文化に立脚した道東圏ならではの「SDGsモデル」を世界に発信することを目的として、道東地域内の様々な分野・業界に声をかけ、全2回に渡る広域SDGsビジョン策定に向けた検討会を開催しました。

広域SDGsビジョン策定に向けて、これまで協議会が主催してきた道東地域でのワークショップで発掘された地域住民の考える道東地域の課題と成すべきアクションを基に、「1. 基盤となる第一次産業の発展」「2. 豊かな自然生態系の保護と懸命な利用」「3. つながりを織り成す学びと協働」という、3つのテーマにわけてビジョンづくりを進める方針を立てられました。

現在道東SDGs推進協議会は、道東地域に属する自治体が市町村として広域ビジョン批准できるような形を目指し、さらに内容を深掘りして各地域との綿密なコミュニケーションを進めています。